

2 図書館・博物館等

2.1 図書館

(1) 施設の概要

■ 設置の目的

図書館は、図書、記録、その他必要な資料を収集・整理・保存して一般市民の利用に供すること及び市民の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的に設置しています。

舞鶴市立図書館条例（1989年（平成元年）条例第4号）の規定に基づき、舞鶴市立図書館及びその分館の管理、運営等に関し、必要な事項が定められています。

■ 保有施設

図書館は、本館として東図書館及び西図書館の2か所（延床面積1,781㎡）が、分館として中分館、南分館及び加佐分館の3か所が、それぞれあります。これら全体で約236,000冊の蔵書を保有しています。

表 施設一覧（2012年度（平成24年度））

施設名称	地区	管理課	施設形態	延床面積(㎡)		蔵書冊数	建築年 ^{※1}	建築年数 ^{※2}
東図書館	東地区	社会教育課	単独	939.28	1,780.59	124,924	1989	23
東図書館中分館	東地区	中央公民館	複合	-			2000	12
東図書館南分館	東地区	南公民館	複合	-		1968	33	
西図書館	西地区	社会教育課	単独	841.31		111,202	1990	22
西図書館加佐分館	加佐地区	加佐公民館	複合	-			1988	24

※1 建築年：一番古い棟の年を記載している。

※2 建築年数：2012年（平成24年）を基準年として算出している。

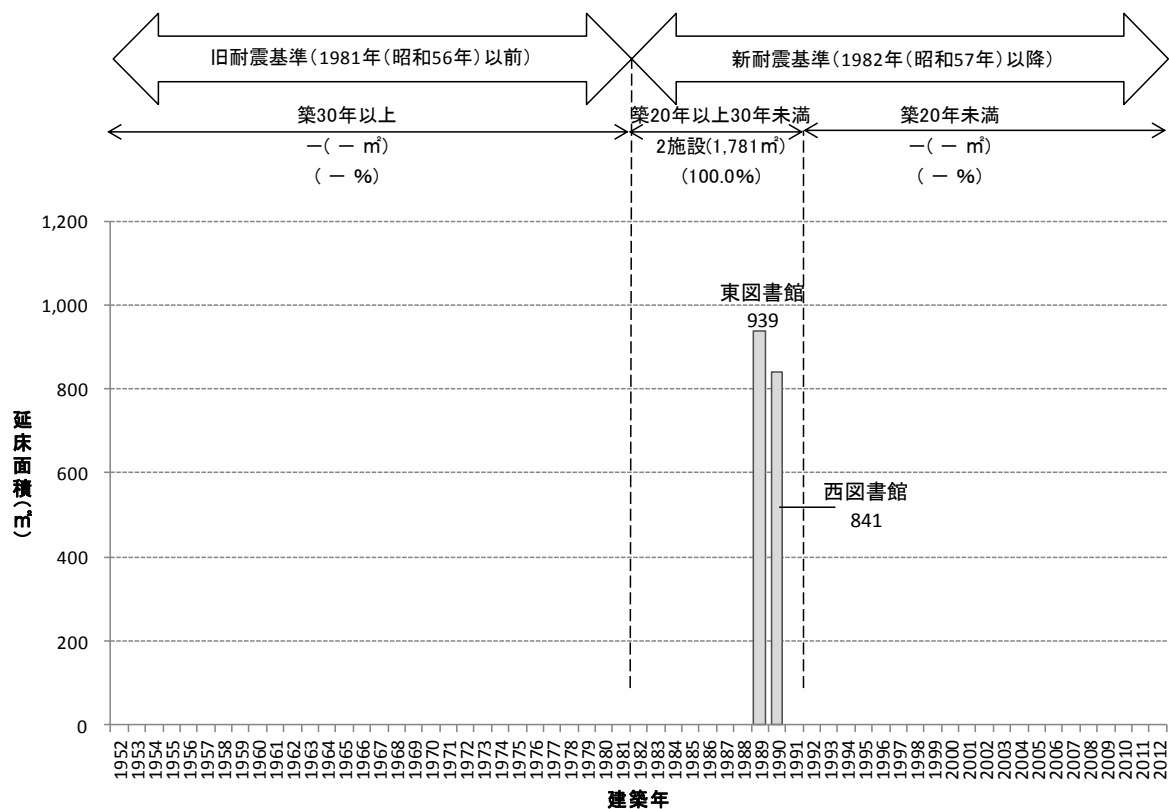
※ 建物状況、コスト状況等については、利用者、利用件数が明確に把握できている東図書館、西図書館のみを対象としている。

(2) 建物状況

■ 老朽化

東図書館は1989年（平成元年）、西図書館は1990年（平成2年）に建築されたもので、比較的新しい建物です。

図 築年別整備状況



※ 建築年が複数回に分かれるものについては、一番古い建築年で示している。

■ 機能改善、環境負荷低減

バリアフリー化は、身障者用トイレ、車いす用スロープ、自動ドア及び点字ブロックについては対応済みです。

環境への負荷を低減させる設備は、設置されていません。

表 機能改善等の状況

		東図書館	西図書館
バリアフリー化	車いす用エレベーター	不要	不要
	身障者用トイレ	●	●
	車いす用スロープ	●	●
	自動ドア	●	●
	手すり	×	×
	点字ブロック	●	●
環境負荷低減	自然エネルギー・太陽光発電	×	×
	屋上緑化・壁面緑化	×	×
	環境対応設備	×	×

※ 「●・・・設置済み」、「▲・・・一部設置」、「×・・・設置なし」を表している。

※ 両図書館とも平屋建てであるため、車いす用エレベーターは不要。

(3) 利用状況

■ 貸出者数、貸出冊数

年間の利用状況は、東図書館では貸出者数約 55,800 人、貸出冊数約 20 万冊で、西図書館では貸出者数約 49,900 人、貸出冊数約 17 万冊となっており、東図書館の方がやや多く利用されています。

表 貸出者数・貸出冊数（2010 年度（平成 22 年度））

施設名称	開館日数	年間貸出者数	1日当たりの利用者数	年間貸出冊数	1人当たりの貸出冊数
	日	人	人/日	冊	冊/人
東図書館	277	55,806	201.5	200,682	3.6
東図書館中分館	347	4,765	13.7	11,863	2.5
東図書館南分館	313	3,632	11.6	9,097	2.5
西図書館	277	49,923	180.2	172,693	3.5
西図書館加佐分館	313	2,150	6.9	7,398	3.4
計		116,276		401,733	3.5

■ 貸出者数、貸出冊数の推移

2006年度（平成18年度）からの利用状況の推移をみると、東図書館、西図書館とも貸出者数、貸出冊数は増加傾向にあります。

図 貸出者数の推移

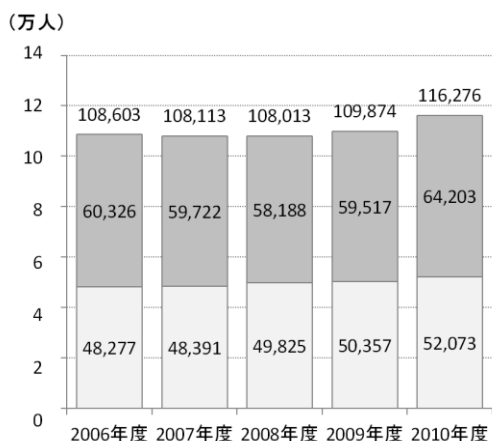
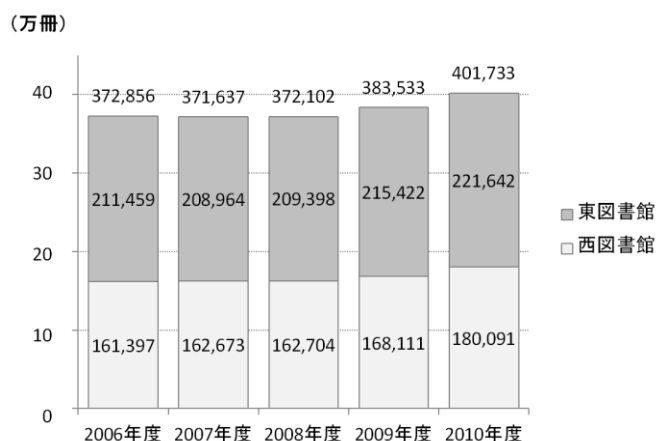


図 貸出冊数の推移



※分館分も含む。貸出冊数には、団体への貸出分を含む。

出典：舞鶴市統計書

(4) 運営状況

■ 運営方法、運営日数

東図書館、西図書館はいずれも、直営で運営されています。

両図書館とも開館日数は277日、開館時間は午前10時、閉館時間は18時です。

表 運営方法・運営日数

施設名称	運営方法	年間運営日数	定休日(曜日)	開館時間	閉館時間
東図書館	直営	277	月	10:00	18:00
西図書館	直営	277	月	10:00	18:00

※ 火曜日のみ19時まで開館

■ 運営人員

東図書館、西図書館はいずれも、職員3名、臨時職員2名の計5名で運営しています。

表 運営人員

施設名称	職員	嘱託職員	臨時職員	指定管理者等の従業員	合計(人)
東図書館	3	0	2	0	5
西図書館	3	0	2	0	5

(5) 防災状況

■ 防災設備状況

両図書館とも耐震性が確保されています。

地域防災計画上の位置付けは、両図書館とも避難所として指定されていません。

避難所機能は、冷暖房設備は整備されているものの、その他の設備は設置されていません。

表 防災設備状況

		東図書館	西図書館
耐震性	耐震診断	不要	不要
	耐震補強	不要	不要
地域 位置 防災 計画 での	災害対策本部	—	—
	避難所	×	×
	応急給水場所	×	×
	医療救護所	×	×
避難 所 機能	災害用備蓄	×	×
	通信設備	×	×
	簡易トイレ	×	×
	マンホールトイレ	×	×
	調理設備	×	×
	代替電源設備	×	×
	冷暖房設備	●	●
	入浴施設	×	×

※ 「●・・・あり」、「×・・・なし」を表している。

※ 耐震性の基準は、基本的に非木造の2階建て以上又は延床面積200㎡超の建物を対象とした市の調査に基づき、次のように分類している。

- ・対象外：上記の対象にならない建物
- ・不要：上記の対象建物の内、1981年（昭和56年）6月以降建築の建物、又は耐震診断を実施し耐震補強の必要がない建物
- ・実施済：上記の対象建物の内、診断・補強を実施した建物
- ・未実施：上記の対象建物の内、診断・補強を実施していない建物

■ 自然災害に対する安全性

ハザードマップ（洪水）でみると、西図書館は1.0から2.0m未満の浸水が予想されるエリアに立地しています。

(6) コスト状況

■ 運営コスト

2010年度（平成22年度）の運営にかかるコストの状況は以下のとおりで、年間約8,500万円が支出され、その全額が市の財政からの支出（行政コスト）です。

図書館全体の利用者1人当たりの行政コストの平均は800円で、東図書館では754円、西図書館では851円となり、両施設でほぼ同等の行政コストが支出されています。

表 施設別の運営コスト（2010年度（平成22年度））

		(円)			
		東図書館	西図書館	合計	
建物に係るコスト (維持管理費等)	燃料費	35,327	35,327	70,654	
	光熱水費	電気代	2,542,720	2,381,461	4,924,181
		油代	0	0	0
		ガス代	0	0	0
		上下水道代	133,314	100,434	233,748
		計	2,676,034	2,481,895	5,157,929
	修繕料	1,231,650	364,130	1,595,780	
	建物管理委託料	1,606,240	1,448,844	3,055,084	
	使用賃借料	地代	0	0	
		その他	197,116	228,398	425,514
		計	197,116	228,398	425,514
	工事請負費	0	2,995,650	2,995,650	
	公有財産・備品購入費	1,039,710	968,589	2,008,299	
	負担金等	7,306	7,513	14,819	
合計(a)	6,793,383	8,530,346	15,323,729		
事業運営費	人件費	24,000,000	24,000,000	48,000,000	
	その他	11,279,083	9,977,544	21,256,627	
	合計(b)	35,279,083	33,977,544	69,256,627	
運営コスト(a+b)		42,072,466	42,507,890	84,580,356	
減価償却費(c)		5,033,333	4,793,115	9,826,448	
トータルコスト(a+b+c)		47,105,799	47,301,005	94,406,804	
行政コスト	指定管理委託料	0	0	0	
	その他行政支出額	42,072,466	42,507,890	84,580,356	
	合計	42,072,466	42,507,890	84,580,356	
年間利用者数(人)		55,806	49,923	105,729	
利用者1人当たりの行政コスト(円)		754	851	800	

運営コストの内訳は、事業運営費が約 6,926 万円（約 82%）、光熱水費が約 516 万円（約 6%）、建物管理委託料が約 306 万円（約 4%）、工事請負費が約 300 万円（約 4%）です。

図 全体の運営コストの内訳（2010 年度（平成 22 年度））

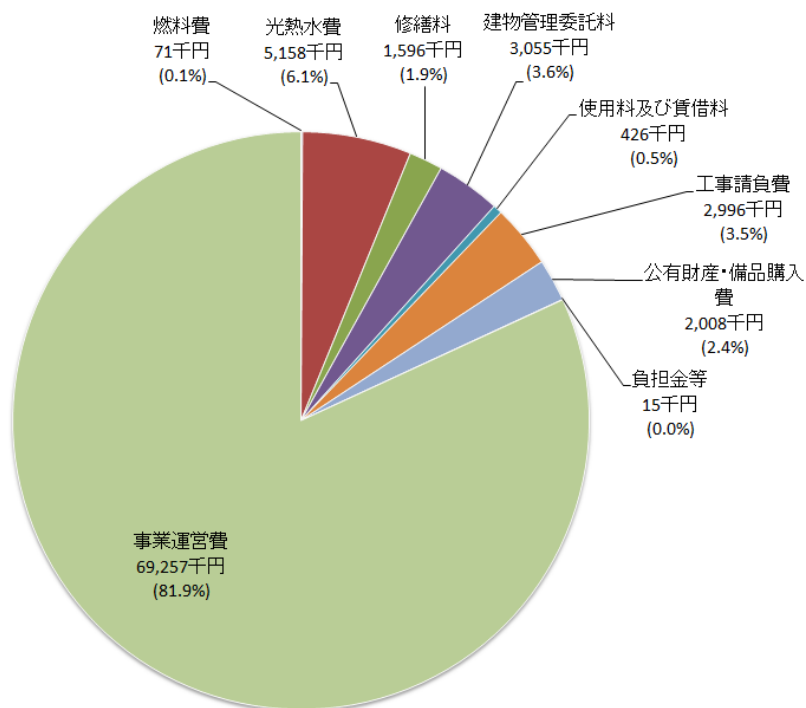
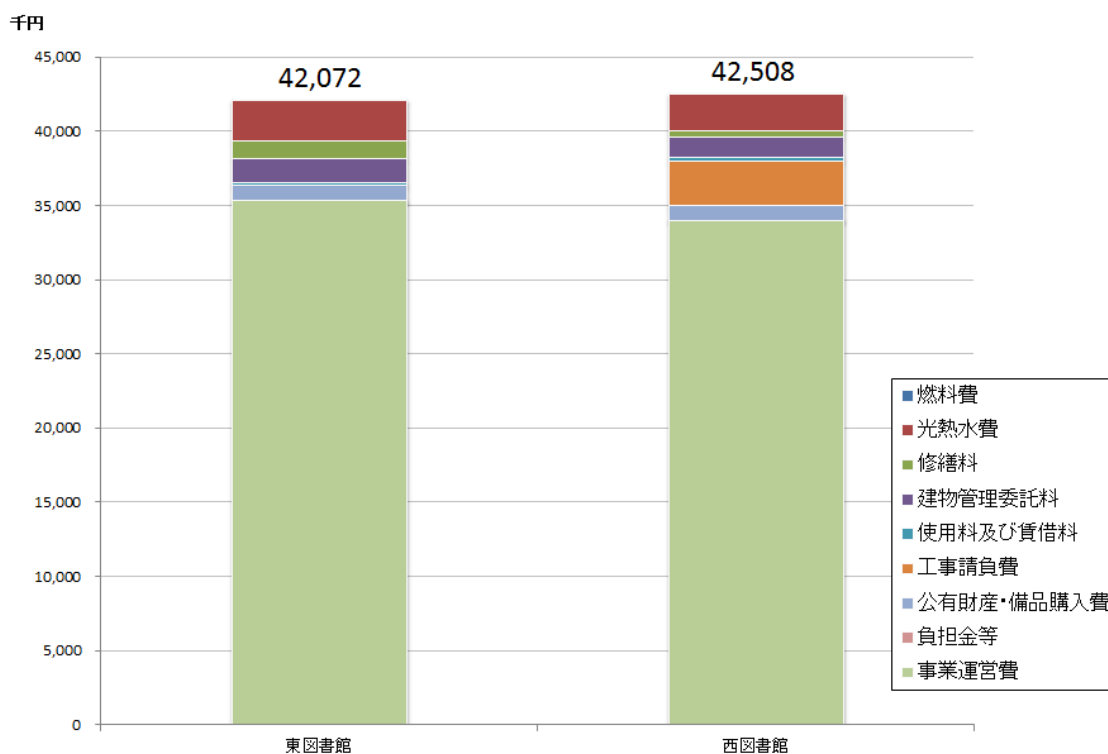


図 施設別の運営コストの内訳（2010 年度（平成 22 年度））



■ 維持管理経費（光熱水費、修繕料、建物管理委託料）

図書館全体の維持管理経費（光熱水費、修繕料、建物管理委託料）として、約 981 万円が支出されています。内訳は、光熱水費が約 516 万円（約 53%）、修繕料が約 160 万円（約 16%）、建物管理委託料が約 306 万円（約 31%）です。

施設別には、東図書館では約 551 万円、西図書館では約 429 万円で、これを施設の延床面積 1 m²当たりの維持管理経費で見ると平均は 5,509 円で、東図書館では約 5,870 円、西図書館では約 5,105 円となり、ほぼ同等の単価で維持管理されています。

表 施設別の 1 m²当たりの維持管理経費（2010 年度（平成 22 年度））

		(円)			
		東図書館	西図書館	合計	平均
延床面積(m ²)		939.28	841.31	1,780.59	890.30
維持管理経費	光熱水費	2,676,034	2,481,895	5,157,929 (52.6%)	2,578,965
	修繕料	1,231,650	364,130	1,595,780 (16.3%)	797,890
	建物管理委託料	1,606,240	1,448,844	3,055,084 (31.1%)	1,527,542
	合計	5,513,924	4,294,869	9,808,793 (100.0%)	4,904,397
1 m ² 当たりの維持管理経費	光熱水費	2,849	2,950	-	2,897
	修繕料	1,311	433	-	896
	建物管理委託料	1,710	1,722	-	1,716
	合計	5,870	5,105	-	5,509

■ 将来コスト

今後40年間における大規模改修、建替え及び耐震改修に必要な投資的経費と維持管理費の合計は約16億6,000万円、年平均で約4,000万円と見込まれます。

このうち、当面の10年間に必要なコストは、両図書館とも対象となる大規模改修費のための投資的経費約4億4,000万円と、両図書館の維持管理費の約1億6,000万円で、合計約6億円となり、年平均では約6,000万円と見込まれます。

表 施設の維持に必要なコスト

		40年間で 必要なコスト	直近10年間で必要なコスト		
			東図書館	西図書館	合計
投資的 経費	大規模改修	4.5	2.3	2.1	4.4
	建替え	6.0	-	-	-
	耐震改修	-	-	-	-
	計	10.5	2.3	2.1	4.4
	(年平均)	(0.26)	(0.23)	(0.21)	(0.44)
	維持管理費等	6.1	0.7	0.9	1.6
合計		16.6	3.0	3.0	6.0
	(年平均)	(0.42)	(0.30)	(0.30)	(0.60)

図 今後40年間で施設の維持に必要なコストの内訳

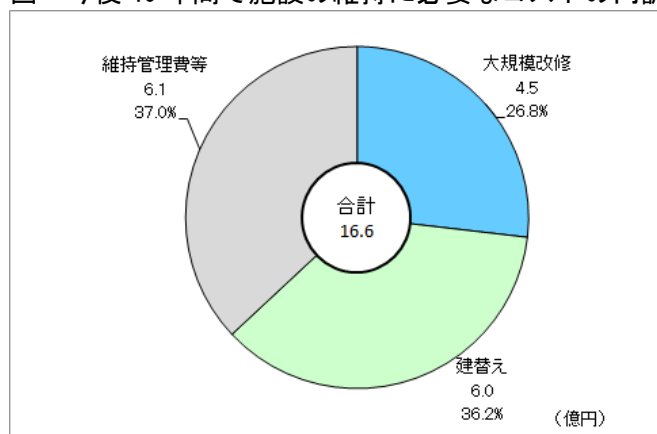
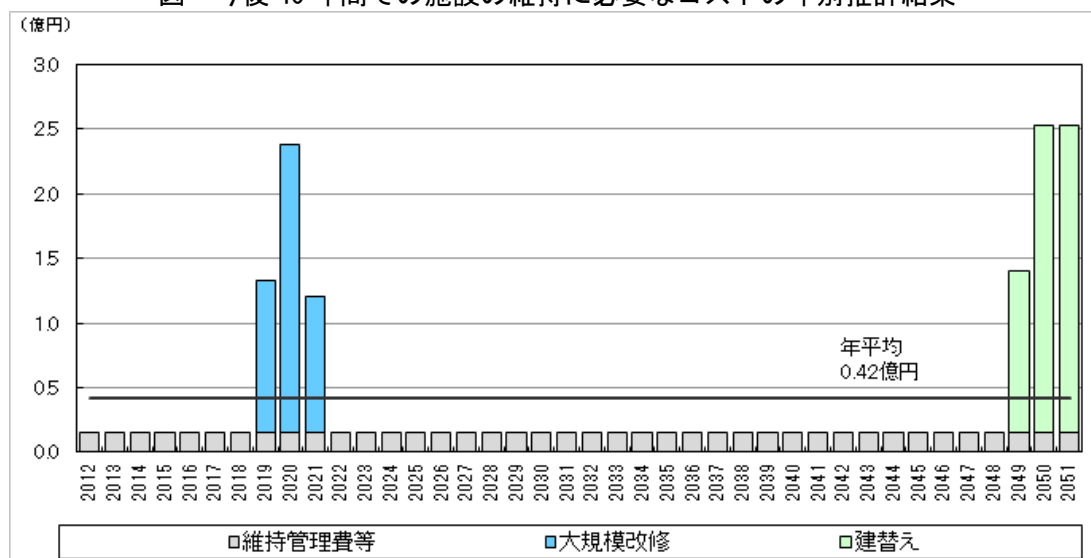


図 今後40年間の施設の維持に必要なコストの年別推計結果



※各将来コストの算定方法は巻末を参照

(7) 評価 (まとめ)

■ 現状・課題

施設の保有状況	<p>➤図書館は、本館として東図書館及び西図書館の2か所(延床面積1,781㎡)が、分館として中分館、南分館及び加佐分館の3か所があります。中分館は中総合会館内に、南分館は南公民館内に、加佐分館は加佐公民館内にあります。</p> <p>➤これら全体で、約236,000冊の蔵書を保有しています。</p>
建物状況	<p>➤本館(東図書館、西図書館)は、ともに築30年以内の施設です。分館では、南分館が入る南公民館で老朽化が進んでいます。</p> <p>➤バリアフリー化は概ね完了しています。</p>
利用・運営状況	<p>➤2010年度(平成22年度)の年間利用者数は、東図書館で約55,800人、西図書館で約49,900人です。両図書館の貸出者数及び貸出冊数は、いずれも増加傾向にあります。</p> <p>➤両図書館とも直営で運営しています。</p>
防災対応状況	<p>➤両施設とも耐震性が確保されています。</p> <p>➤地域防災計画上の位置付けはありません。</p> <p>➤西図書館は、河川氾濫時に浸水被害が予想されるエリアに立地しています。</p>
コスト状況	<p>➤2010年度(平成22年度)の運営コストは約8,500万円で、事業運営費が約82%、建物に係るコスト(維持管理費等)が約18%で、全額が市の財政からの支出(行政コスト)です。</p> <p>➤利用者1人当たりの行政コストは、東図書館で754円、西図書館で851円です。貸出1冊当たりでは、東図書館で210円、西図書館で246円です。また、延床面積1㎡当たりの維持管理経費は、東図書館で5,870円、西図書館で5,105円です。</p> <p>➤今後40年間に必要な将来コスト(事業運営費を除く)は約16億6,000万円(年平均約4,000万円)で、当面10年間では、両図書館の大規模改修のために約4億4,000万円の投資的経費が必要になります。</p>

※建物状況、コスト状況等については、利用者、利用件数が明確に把握できている東図書館、西図書館のみを対象としている。

■ 改善の方向性

- 施設面に特に大きな問題は無く、運営・利用面でも全国の市立図書館の平均的なレベルにあります。
- 利用者数、貸出冊数とも増加傾向にあり、今後も引き続き利用促進など有効活用策を講じることで、より安価なコストで図書館を運営していくことが望まれます。
- 開館時間の延長や利用者サービスの向上等についても、民間の知恵を活かした施設整備や管理運営手法を考えていく必要があります。

表 市立（区立）図書館の運用実績の全国平均との比較（参考）

比較項目		全国	舞鶴市	備考
図書館数		2,540 館	2 館	全国はアンケート回答数
蔵書数	全体	312,273 千冊	236 千冊	舞鶴市は分館を含む
	1 館当たり	123 千冊/館	118 千冊/館	〃
来館者数	全体	267,122 千人	116,276 人	〃
	1 館当たり	105 千人/館	58 千人/館	〃
個人貸出数	全体	645,138 千点	401,733 点	〃
	1 館当たり	254 千点/館	201 千点/館	〃
運営経費	全体	1,369 億円	8,458 万円	〃
	1 館当たり	5,390 万円/館	4,229 万円/館	〃
	来館者当たり	512 円/人	727 円/人	〃
	1 点当たり	212 円/点	211 円/点	〃

※：経常的経費＋臨時的経費＋資料費

日本の図書館統計 2011 年（平成 23 年）（社団法人 日本図書館協会）を基に作成

2.2 博物館等

(1) 施設の概要

■ 設置の目的

博物館等は、歴史、芸術、民俗、産業及び自然科学等に関する資料を収集し、保管・展示及び研究等により、市民の文化発展及び教育文化の向上に資することを目的に設置しています。

■ 保有施設

博物館等は5か所、延床面積2,425㎡を保有しています。

舞鶴市は、1945年（昭和20年）10月7日に引揚第1船「雲仙丸」が舞鶴港に入港して以来、13年にわたり、66万人以上の引揚者と16,000柱の遺骨を迎え入れました。この引き揚げの地を見下ろす小高い丘に、1970年（昭和45年）に「引揚記念公園」が設けられ、1988年（昭和63年）に「舞鶴引揚記念館」が完成し、展示されている多くの貴重な資料は、訪れる人々に平和の尊さを語りかけています。

赤れんが博物館は、1903年（明治36年）に旧舞鶴海軍兵器廠魚形水雷庫として建設された倉庫を1993年（平成5年）に改修したもので、舞鶴の個性の一つとなっているれんがの資料収集、展示及び研究を行うとともに、れんがに関する情報を発信し、れんがを活用した地域の活性化を図ることを目的としています。

舞鶴市郷土資料館は舞鶴市民会館2階にあり、舞鶴地域の文化遺産を保存・展示する施設として、市内の遺跡から発掘された土器や石器及び旧家の古文書等が、時代別に陳列されており、古代から現在までの舞鶴の歴史を伝える展示場です。

田辺城資料館では、細川幽斎を中心とした歴代城主や、城下町・田辺の歴史を紹介しています。彰古館では、「糸井文庫」の錦絵資料を展示しています。

表 施設一覧（2012年度（平成24年度））

施設名称	地区	所管課	施設形態	延床面積(㎡)		建築年 ^{※1}	建築年数 ^{※2}
舞鶴引揚記念館	大浦地区	文化振興課	単独	861.28	2,424.52	1988	24
赤れんが博物館	東地区	社会教育課	単独	842.44		1903	109
郷土資料館	西地区	社会教育課	複合	414.87		1968	44
田辺城資料館	西地区	社会教育課	単独	206.79		1992	20
彰古館	西地区	社会教育課	単独	99.14		1941	71

※1 建築年：一番古い棟の年を記載している。

※2 建築年数：2012年（平成24年）を基準年として算出している。

■ 配置状況

図 施設配置



(2) 建物状況

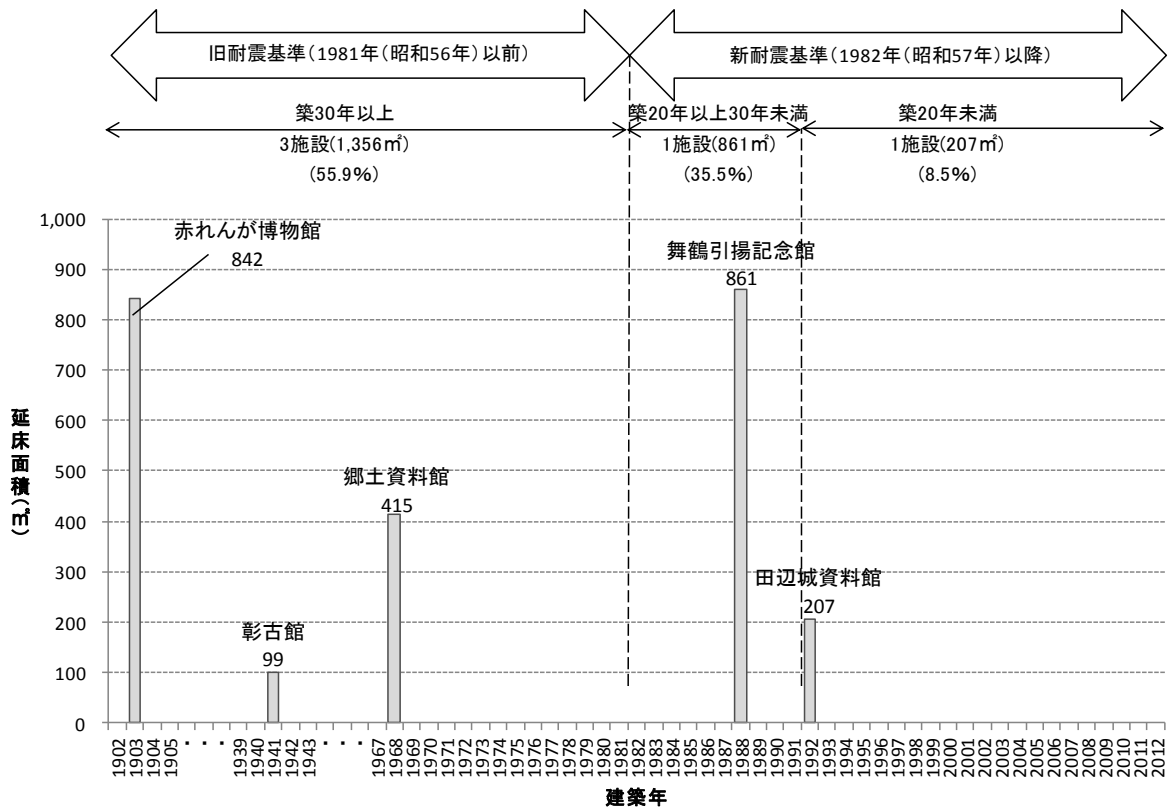
■ 老朽化

床面積ベースで見ると、築30年以上の施設が約1,400㎡（約56%）、築20年以上30年未満が約860㎡（約36%）、築20年未満が210㎡（約9%）です。

築年数71年（1941年（昭和16年）築）の彰古館と、築年数44年（1968年（昭和43年）築）の舞鶴市民会館内にある郷土資料館は、老朽化が進んでいます。

赤れんが博物館は建築年数109年（1903年（明治36年）築）と非常に古い施設ですが、老朽化や耐震性の問題はありません。

図 築年別整備状況



※建築年が複数回に分かれるものについては、一番古い建築年で示している

■ 機能改善、環境負荷低減

バリアフリー化は、舞鶴引揚記念館、赤れんが博物館及び郷土資料館では概ね対応済みですが、環境への負荷を低減させる設備は、設置されていません。

表 機能改善等の状況

		舞鶴引揚記念館	赤れんが博物館	郷土資料館	田辺城資料館	彰古館
バリアフリー化	車いす用エレベーター	×	●	●	×	×
	身障者用トイレ	●	●	●	×	×
	車いす用スロープ	●	●	●	×	×
	自動ドア	●	●	×	×	×
	手すり	●	●	●	×	▲
	点字ブロック	●	▲	▲	×	×
環境負荷低減	自然エネルギー・太陽光発電	×	×	×	×	×
	屋上緑化・壁面緑化	×	×	×	×	×
	環境対応設備	×	×	×	×	×

※ 「●・・・設置済み」、「▲・・・一部設置」、「×・・・設置なし」を表している。

(3) 利用状況

■ 入館者数

舞鶴引揚記念館は、年間入館者数が約 116,500 人と市内の博物館等の中で最も多く、次いで赤れんが博物館が約 68,200 人です。また、田辺城資料館は約 13,600 人、彰古館は約 4,900 人、郷土資料館は約 3,300 人です。

表 入館者数 (2010 年度 (平成 22 年度))

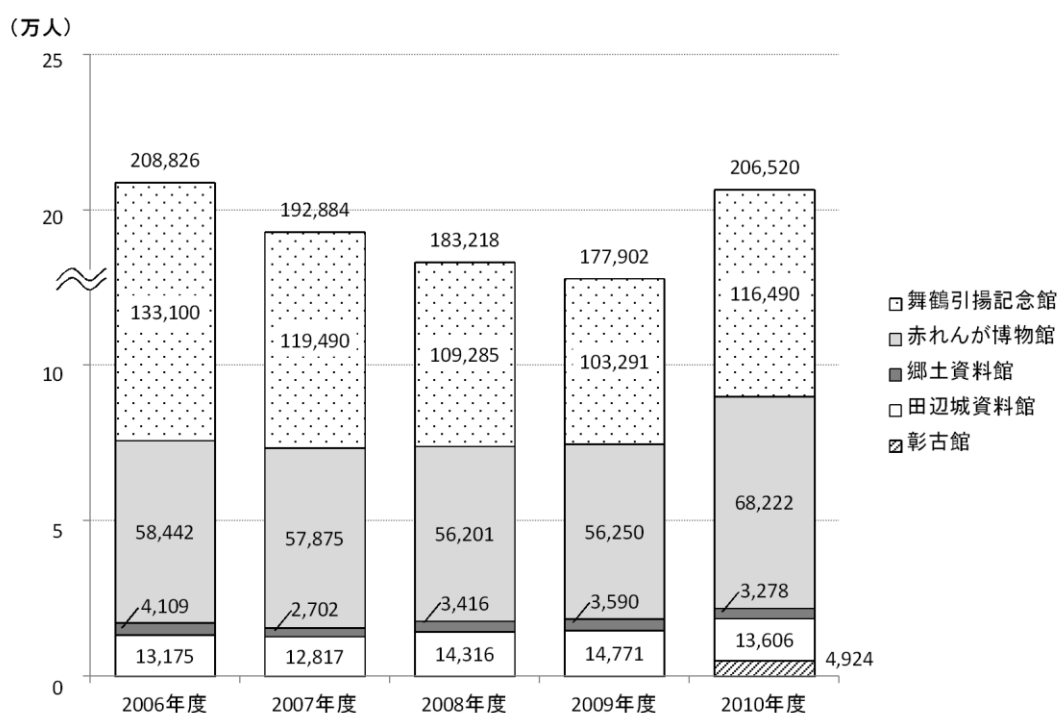
施設名称	年間 運営日数	年間 入館者数	1日当たり 入館者数
	日	人	人/日
舞鶴引揚記念館	359	116,490	324.5
赤れんが博物館	359	68,222	190.0
郷土資料館	294	3,278	11.1
田辺城資料館	295	13,606	46.1
彰古館	295	4,924	16.7
合計		206,520	

出典：舞鶴市統計書

■ 入館者数の推移

2006 年度 (平成 18 年度) から 2009 年度 (平成 21 年度) までは入館者数は減少傾向にありましたが、2010 年度 (平成 22 年度) には増加に転じています。これは、高速道路無料化社会実験による観光客の増加の影響が現れたものと考えられます。

表 入館者数の推移



出典：舞鶴市統計書

(4) 運営状況

■ 運営方法、運営日数

指定管理者により運営されていた舞鶴引揚記念館が、2012年（平成24年）4月1日より直営に運営方式が改められたため、現在、すべての博物館等が直営で運営されています。

運営日数は、舞鶴引揚記念館では347日、赤れんが博物館では359日、田辺城資料館及び彰古館では295日、郷土資料館では294日です。

全施設とも開館時間は9時、閉館時間は17時です。

表 運営方法・運営日数

施設名称	運営方法	年間運営日数	定休日(曜日)	開館時間	閉館時間
舞鶴引揚記念館	直営	347	年末年始・第3木曜日	9:00	17:00
赤れんが博物館	直営	359	年末年始	9:00	17:00
郷土資料館	直営	294	月	9:00	17:00
田辺城資料館	直営	295	月	9:00	17:00
彰古館	直営	295	月	9:00	17:00

■ 運営人員

舞鶴引揚記念館は職員及び嘱託職員各2名、臨時職員4名の合計8名で運営されています。また、赤れんが博物館は職員及び嘱託職員各1名、委託職員3名の合計5名で運営されています。郷土資料館は臨時職員2名で、田辺城資料館は嘱託職員及び委託職員の各1名で、それぞれ運営されています。彰古館には運営に係わる職員は、配置されていません。

表 運営人員

施設名称	職員	嘱託職員	臨時職員	指定管理者等の従業員	合計(人)
舞鶴引揚記念館	2	2	4	0	8
赤れんが博物館	1	1	0	3	5
郷土資料館	0	0	2	0	2
田辺城資料館	0	1	0	1	2
彰古館	0	0	0	0	0

※赤れんが博物館は窓口業務を委託

※指定管理者等の従業員数は、1日当たりの人数

(5) 防災状況

■ 防災設備状況

耐震診断は、郷土資料館の入る舞鶴市民会館で実施されていません。

地域防災計画上の位置付けは、郷土資料館の入る舞鶴市民会館が避難所に指定されており、状況に応じて応急給水場所が設置されます。

避難所機能は、舞鶴引揚記念館、赤れんが博物館、郷土資料館及び田辺城資料館に冷暖房設備が設置されているものの、その他の設備は設置されていません。

表 防災設備状況

		舞鶴引揚記念館	赤れんが博物館	郷土資料館	田辺城資料館	彰古館
耐震性	耐震診断	不要	実施済	未実施	不要	対象外
	耐震補強	不要	実施済	未実施	不要	対象外
地域 防災 位置 付け 計画 での	災害対策本部	—	—	—	—	—
	避難所	×	×	●	×	×
	応急給水場所	×	×	●	×	×
	医療救護所	×	×	×	×	×
避難 所 機能	災害用備蓄	×	×	×	×	×
	通信設備	×	×	×	×	×
	簡易トイレ	×	×	×	×	×
	マンホールトイレ	×	×	×	×	×
	調理設備	×	×	×	×	×
	代替電源設備	×	×	×	×	×
	冷暖房設備	●	●	●	●	×
入浴施設	×	×	×	×	×	

※ 「●・・・あり」、「×・・・なし」を表している。

※ 耐震性の基準は、基本的に非木造の2階建て以上又は延床面積200㎡超の建物を対象とした市の調査に基づき、次のように分類している。

- ・対象外：上記の対象にならない建物
- ・不要：上記の対象建物の内、1981年（昭和56年）6月以降建築の建物、又は耐震診断を実施し耐震補強の必要がない建物
- ・実施済：上記の対象建物の内、診断・補強を実施した建物
- ・未実施：上記の対象建物の内、診断・補強を実施していない建物

■ 自然災害に対する安全性

ハザードマップ（洪水）でみると、郷土資料館、田辺城資料館及び彰古館は1.0から2.0m未満の浸水が予想されるエリアに立地しています。

(6) コスト状況

■ 運営コスト

2010年度(平成22年度)の各施設の運営にかかるコストの状況は以下のとおりで、年間約7,200万円をかけて運営されています。このうち、市の財政からの支出(行政コスト)は指定管理委託料を含む約6,400万円です。

博物館全体の利用者1人当たりの行政コストの平均は309円で、最も低いのが舞鶴引揚記念館の252円、最も高いのが郷土資料館の957円となり、施設間でばらつきがあります。

表 施設別の運営コスト(2010年度(平成22年度))

(円)

		舞鶴引揚記念館	赤れんが博物館	郷土資料館 ※1	田辺城資料館	彰古館	合計	
建物に係るコスト (維持管理費等)	燃料費	18,146	0	0	0	0	18,146	
	光熱水費	電気代	3,726,420	3,763,429	0	337,056	161,547	7,988,452
		油代	38,576	0	0	0	0	38,576
		ガス代	80,488	0	0	0	0	80,488
		上下水道代	350,098	286,110	0	0	0	636,208
		計	4,195,582	4,049,539	0	337,056	161,547	8,743,724
	修繕料	376,881	461,475	0	33,609	16,108	888,073	
	建物管理委託料	3,586,915	3,590,745	0	115,691	55,449	7,348,800	
	賃借料	地代	0	799,685	0	0	0	799,685
		その他	508,410	137,131	156,073	0	0	801,614
		計	508,410	936,816	156,073	0	0	1,601,299
	工事請負費	1,021,650	0	0	0	0	1,021,650	
	公有財産・備品購入費	4,611,632	0	16,800	0	0	4,628,432	
	負担金等	34,211	35,519	1,889	7,521	557	79,697	
合計(a)	14,353,427	9,074,094	174,762	493,877	233,661	24,329,821		
事業運営費	人件費	19,602,632	12,768,898	2,760,192	2,545,288	1,219,931	38,896,941	
	その他	3,701,494	3,680,611	203,248	835,545	400,469	8,821,367	
	合計(b)	23,304,126	16,449,509	2,963,440	3,380,833	1,620,400	47,718,308	
運営コスト(a+b)	37,657,553	25,523,603	3,138,202	3,874,710	1,854,061	72,048,129		
減価償却費(c)	3,984,167	6,032,298	441,949	220,287	407,441	11,086,142		
トータルコスト(a+b+c)	41,641,720	31,555,901	3,580,151	4,094,997	2,261,502	83,134,271		
行政コスト	指定管理委託料	26,559,011	0	0	0	0	26,559,011	
	その他行政支出額	2,771,498	25,523,603	3,138,202	3,874,710	1,854,061	37,162,074	
	合計	29,330,509	25,523,603	3,138,202	3,874,710	1,854,061	63,721,085	
年間利用者数(人)	116,490	68,222	3,278	13,606	4,924	206,520		
利用者1人当たりの行政コスト(円)	252	374	957	285	377	309		

※1：郷土資料館の光熱水費等は舞鶴市民会館に含まれる。

運営コストの内訳は、事業運営費が約 4,772 万円（約 66%）、光熱水費が約 874 万円（約 12%）、建物管理委託料が約 735 万円（約 10%）、公有財産・備品購入費が約 463 万円（約 6%）です。

図 全体の運営コストの内訳（2010 年度（平成 22 年度））

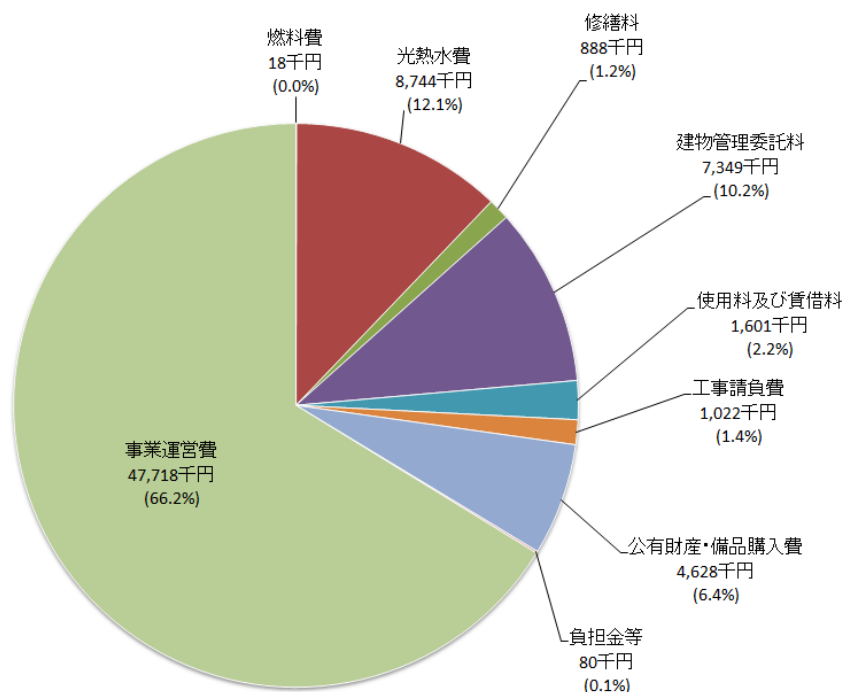
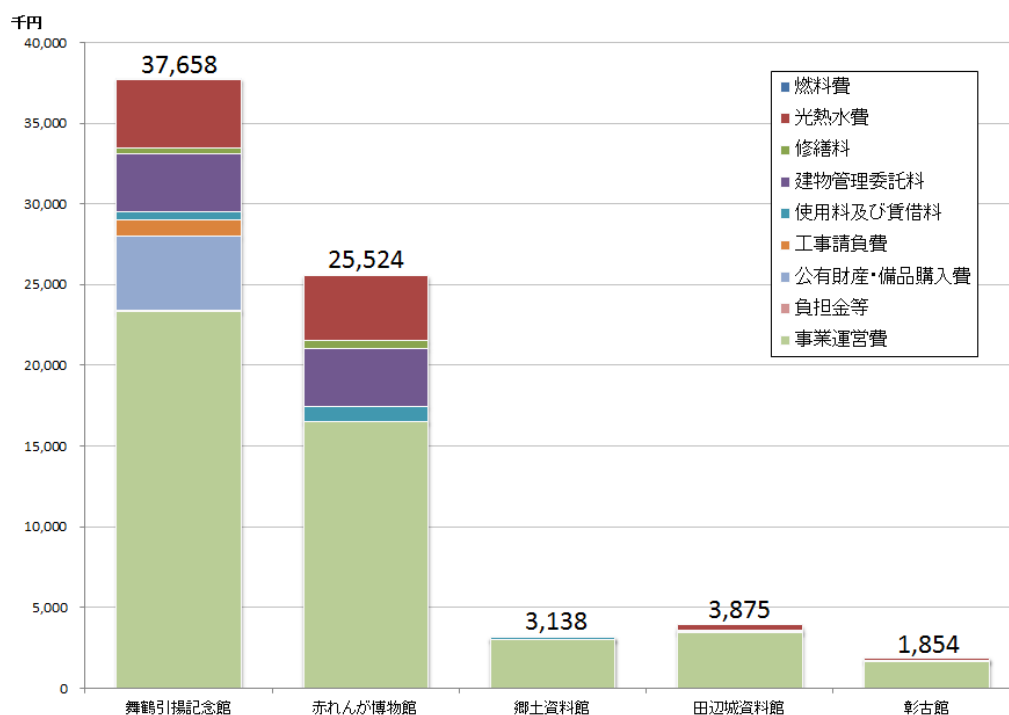


図 施設別の運営コストの内訳（2010 年度（平成 22 年度））



■ 維持管理経費（光熱水費、修繕料、建物管理委託料）

博物館等全体の維持管理経費（光熱水費、修繕料、建物管理委託料）として、約 1,698 万円が支出されています。内訳は、光熱水費が約 874 万円（約 52%）、修繕料が約 89 万円（約 5%）、建物管理委託料が約 735 万円（約 43%）です。

施設別には、郷土資料館を除くと約 23 万円（彰古館）から約 816 万円（舞鶴引揚記念館）の間で、これを施設の延床面積 1 m²当たりの維持管理経費で見ると平均は 7,004 円で、最も低いのが彰古館の 2,351 円、最も高いのが赤れんが博物館の 9,617 円となり、施設間でばらつきがあります。

表 施設別の 1 m²当たりの維持管理経費（2010 年度（平成 22 年度））

(円)

		舞鶴引揚記念館	赤れんが博物館	郷土資料館 ※1	田辺城資料館	彰古館	合計	平均
延床面積(m ²)		861.28	842.44	414.87	206.79	99.14	2,424.52	484.90
維持管理経費	光熱水費	4,195,582	4,049,539	0	337,056	161,547	8,743,724 (51.5%)	1,748,745
	修繕料	376,881	461,475	0	33,609	16,108	888,073 (5.2%)	177,615
	建物管理委託料	3,586,915	3,590,745	0	115,691	55,449	7,348,800 (43.3%)	1,469,760
	合計	8,159,378	8,101,759	0	486,356	233,104	16,980,597 (100.0%)	3,396,119
1 m ² 当たり の 維持管理 経費	光熱水費	4,871	4,807	0	1,630	1,629	-	3,606
	修繕料	438	548	0	163	162	-	366
	建物管理委託料	4,165	4,262	0	559	559	-	3,031
	合計	9,474	9,617	0	2,352	2,351	-	7,004

※1：郷土資料館の光熱水費等は舞鶴市民会館に含まれる。

■ 将来コスト

今後40年間における大規模改修、建替え及び耐震改修に必要な投資的経費と維持管理費の合計は約20億7,000万円、年平均で約5,000万円と見込まれます。

このうち、当面の10年間に必要なコストは、舞鶴引揚記念館と郷土資料館での大規模改修に加え、郷土資料館では耐震改修が必要となるための投資的経費約3億3,000万円と、全施設の維持管理費約2億3,000万円、合計約5億6,000万円となり、年平均では約6,000万円と見込まれます。

表 施設の維持に必要なコスト

(億円)

	40年間で必要なコスト	直近10年間で必要なコスト					合計
		舞鶴引揚記念館	赤れんが博物館	郷土資料館	田辺城資料館	彰古館	
投資的経費							
大規模改修	5.8	2.2	-	1.0	-	-	3.2
建替え	5.1	-	-	-	-	-	-
耐震改修	0.1	-	-	0.1	-	-	0.1
計	11.0	2.2	-	1.1	-	-	3.3
(年平均)	(0.28)	(0.22)	-	(0.11)	-	-	(0.33)
維持管理費等	9.7	1.4	0.9	0.0	0.0	0.0	2.3
合計	20.7	3.6	0.9	1.1	0.0	0.0	5.6
(年平均)	(0.52)	(0.36)	(0.09)	(0.11)	(0.00)	(0.00)	(0.56)

図 今後40年間で施設の維持に必要なコストの内訳

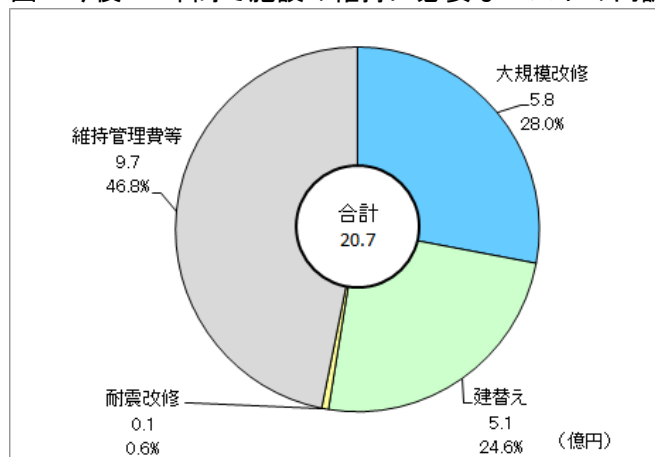
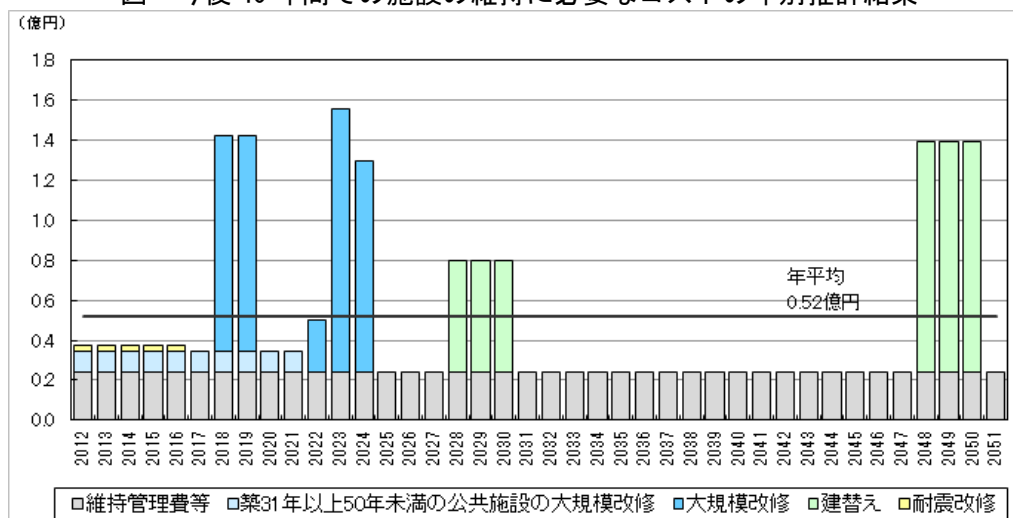


図 今後40年間の施設の維持に必要なコストの年別推計結果



※各将来コストの算定方法は巻末を参照

(7) 評価(まとめ)

■現状・課題

施設の保有状況	<p>➤博物館等は5か所、延床面積2,425㎡を保有しています。このうち、郷土資料館は舞鶴市民会館内に設けられています。</p>
建物状況	<p>➤築年数71年(1941年(昭和16年)築)の彰古館と、築年数44年(1968年(昭和43年)築)の舞鶴市民会館内にある郷土資料館は、老朽化が進んでいます。</p> <p>➤赤れんが博物館は建築年数109年(1903年(明治36年)築)と非常に古い施設ですが、老朽化や耐震性の問題はありません。</p> <p>➤バリアフリー化は舞鶴引揚記念館、赤れんが博物館及び郷土資料館では概ね対応済みです。環境への負荷を低減させる設備は設置されていません。</p>
利用・運営状況	<p>➤高速道路無料化社会実験のあった2010年度(平成22年度)を除き、年間利用者数は減少傾向にあります。</p> <p>➤舞鶴引揚記念館と赤れんが博物館の利用者は多いものの、郷土資料館と彰古館の利用者は比較的少ない人数です。</p> <p>➤指定管理者により運営されていた舞鶴引揚記念館が、2012年(平成24年)4月1日より、運営方式が直営に改められたため、現在はすべての博物館等が直営で運営されています。</p>
防災対応状況	<p>➤耐震診断は、郷土資料館の入る舞鶴市民会館で実施されていません。</p> <p>➤地域防災計画上の位置付けは、郷土資料館の入る舞鶴市民会館が避難所に指定されています。</p> <p>➤彰古館、田辺城資料館及び郷土資料館(舞鶴市民会館)は、河川氾濫時に浸水被害が予想されるエリアに立地しています。</p>
コスト状況	<p>➤2010年度(平成22年度)の運営コストは約7,200万円で、事業運営費が約66%、建物に係るコスト(維持管理費等)が約34%で、市の財政からの支出(行政コスト)は指定管理委託料を含む約6,400万円です。</p> <p>➤利用者1人当たりの行政コストは平均309円で、252円(舞鶴引揚記念館)から957円(郷土資料館)の間です。また、延床面積1㎡当たりの維持管理経費は平均で7,004円です。</p> <p>➤今後40年間に必要な将来コスト(事業運営費を除く)は約20億7,000万円(年平均約5,000万円)で、当面10年間では、舞鶴引揚記念館と郷土資料館(舞鶴市民会館)の大規模改修や耐震改修のために約3億3,000万円の投資的経費が必要になります。</p>

■ 改善の方向性

- 郷土資料館は、老朽化・耐震性に課題を抱える舞鶴市民会館内にあり、舞鶴市民会館・西公民館のあり方にも関連しますが、他の博物館等と異なり現在の場所に有り続ける必然性は少ない施設です。このため、他の場所への移転を含めて更新のあり方を検討する必要があります。
- 舞鶴引揚記念館及び赤れんが博物館は、市外からの観光客の利用が中心であり、2010年度（平成22年度）は利用者数が大きく増加に転じましたが、これは高速道路無料化社会実験の影響による観光客の増加であり、今後は舞鶴赤れんがパークや田辺城址等、他の観光施設との連携を強化し、誘客に努めていく必要があります。